



ホームページリニューアルにより、さらなる情報発信に注力されています

診療日と手術日を見直しさせていただくのきっかけに、来院される方に向けてより分かりやすく情報発信するため 2025 年 1 月にホームページをリニューアルしました。初診を除き、ホームページからの WEB 予約受付にも対応しています。



しぶし眼科様ホームページ
(<https://shibusshi-eyecl.com/>)

導入いただいた製品

小型 3CMOS フル HD カメラ : MKC-X300

Ikegami メディカルカメラ史上最高感度の小型 3CMOS フル HD カメラです。汎用的なモデルでありながら、S/N 比 63dB の高画質と F13/2000lx の高感度を実現しており、16 軸方向で独立した色相、彩度の調整が可能なカラーコレクト機能を搭載し、忠実に色を再現することができます。



メディカルデジタルビデオレコーダー : MDR-600HD

医療用カメラ・医療機器等から出力される幅広い解像度（640×480 ～ 1920×1080）の信号を、簡単操作により内蔵 HDD と外部 USB デバイスへ記録します。高い信頼性のもと、動画や静止画の同時記録および再生が可能なメディカルビデオレコーダーです。



眼科様向けの手術顕微鏡用カメラシステムのご紹介

池上通信機ホームページで、眼科様向けの手術顕微鏡用カメラシステムをご紹介します。お客様のご要望に合わせた映像機器、映像システムをご提案いたします。



URL : https://www.ikegami.co.jp/medical/microscope_eye/

松清 貴幸 院長



大阪大学医学部 卒業
大阪大学医学部 眼科 入局
大阪大学医学部附属病院眼科勤務
東大阪市立中央病院眼科勤務
伊丹市民病院眼科勤務
鹿児島大学医学部 眼科 入局
鹿児島大学医学部附属病院眼科勤務
鹿児島大学医学部附属病院麻酔科勤務
医療法人しぶし眼科 開院

坪田 健一郎 様



有限会社しぶしコンタクト・メガネ
(手術室内でのレコーダー運用担当)

池上通信機株式會社

〒146-8567 東京都大田区池上5-6-16

URL:www.ikegami.co.jp

お問い合わせは ☐ 営業・マーケティング本部 TEL:03-5748-2211

☐ 大阪支店 TEL:06-6389-4466

☐ 名古屋支店 TEL:052-705-6521

☐ 九州支店 TEL:092-451-2521

☐ 仙台営業所 TEL:022-292-2420

☐ 札幌営業所 TEL:011-231-8218

U564A254-SELF

(2025年4月制作)

「技術」のチカラで、あなたをしあわせに。



Ikegami

Case Study Medical Solution

医療法人しぶし眼科 様



レコーダーからのネットワーク転送機能により業務効率化を実現する 手術室映像ネットワークシステム

医療法人しぶし眼科（以下、しぶし眼科）様は、鹿児島空港から東へ車で 1 時間半ほど、市名が特徴的な志布志市（しぶしし）に位置します。志布志市には、大阪港等との定期航路を持つ志布志港があり、南九州地域における国内外の物流拠点としての役割を担っています。



しぶしししぶし…まるで早口言葉のような市役所の看板

しぶし眼科様では、眼科一般診療に加えて、白内障・翼状片手術を主として年間約 500 件の日帰り手術を実施されています。また、角膜・緑内障・黄斑疾患・ロービジョン・網膜硝子体等の専門外来にも対応しています。松清院長のふるさとである志布志市で 2002 年にしぶし眼科様を開院され、地域医療の発展に貢献したいとの想いで長年続けられています。今回、松清院長と運用担当の坪田様に 2024 年 9 月に納入した手術室映像システムについてお話を伺いました。



建物内は大きな壁の仕切りがなく、検査エリアから待合室まで見通せる非常に明るく開放的な空間です。

中面につづく

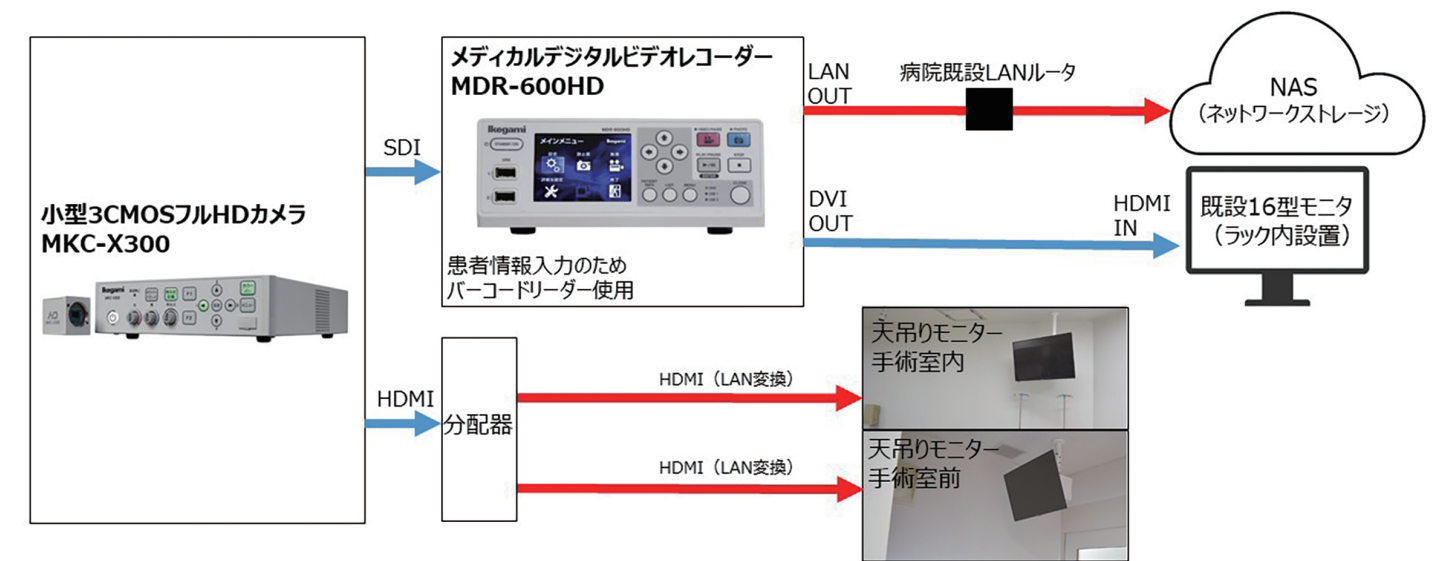
導入の経緯

これまで使われていた手術顕微鏡用アナログカメラの更新で、医療機器代理店より Ikegami の小型 3CMOS フル HD カメラ「MKC-X300」をご紹介いただきました。また、記録再生用の機材として、メディカルデジタルビデオレコーダー「MDR-600HD」も選定いたしました。これまで手術室内に置いているデバイス同士を繋げてデータ転送をしていましたので、更新に際しては、データ転送機能を維持しつつも、より使い勝手の良いネットワークシステムを希望していました。更新に向けた打ち合わせでは親身になっていただき、感謝しています。導入から半年経ちましたが、トラブルもなく、手術に集中できています。



医療法人しづし眼科 松清 貴幸 院長

システム簡略図



作業の大幅な効率化を実現

このレコーダーを導入して以来、手術後のデータ保存作業が大幅に効率化されました。今までは手術室に置いてあるノート PC にしかデータ転送できなかったのですが、手術室まで行かなければなりませんでした。レコーダーのネットワーク転送機能が、院内ネットワークに繋がるよう強化されたことによってネットワークに繋がる複数のデバイスから確認できるようになりました。手術室以外の PC からでも確認できるので業務の効率化に繋がっています。松清院長との迅速なデータ共有も実現できました。データ保管のために、これまでは患者様のお名前等の情報を入力する手間もありましたが、今回のレコーダーでは記録前にカルテの ID を読み込むことで入力作業から開放されうれしく思っています。



また、今回の更新では手術顕微鏡用カメラをアナログカメラからデジタルカメラへ移行したことで、高画質で鮮明な映像を確認することができています。納入以降、安定して運用できていることに感謝しています。



有限会社しづしコンタクト・メガネ 坪田 健一郎 様
(手術室内でのレコーダー運用担当)

レコーダーの運用方法

当院では主に白内障手術を実施しています。天吊りアームの手術顕微鏡 1 台に対して 2 台の診察台を用意しており、手術日にあたる月曜日は 1 日あたり約 12 件の手術を実施しています。



天吊りアームの手術顕微鏡（写真中央）

MKC-X300



実際の運用方法を実演してくださる運用担当の坪田様

手術室内の棚に置いてあるビデオレコーダー「MDR-600HD」の録画操作は非常に簡単です。患者様が手術室に入られたら、まずカルテからお 1 人ずつ ID 読込を行います。そして手術前後にレコーダーの録画ボタンと STOP ボタンを押すだけです。ビデオレコーダーの使い方わからないことはなく、操作性に全く違和感がありません。手術直後にその場で ID に紐づいた映像を、松清院長が確認することもあります。気になったところをすぐに確認できるのも便利です。

ネットワーク転送機能を活用することで、外部 HDD に手術映像データのコピーを取って物理的に院内 PC へ保存する方法よりも、データ紛失・流出対策に繋がります。

モニターの運用方法

手術室内には天吊りモニターを用意し、手術中の手術顕微鏡用カメラ映像が確認できる環境を整えています。さらに、手術室の入り口前にもモニターを設置しているため、手術室へ靴を履き替えて入らずとも手術の進行状況が確認できます。手術日である月曜日には約 12 件の手術を行っていますが、この位置にモニターがあることで患者様へのスムーズな案内にも役立っています。



手術室内モニター



手術室入り口前モニター

今後について

現在、手術映像の保管は院内ネットワークを経由し NAS に保管していますが、今後さらに手術映像を含めた患者様の情報管理のセキュリティ面をより強化していきたいです。医院としては、現在 14 名いる医師・スタッフの仲間と一緒に、映像システムをはじめとした患者様へ安心を提供できる手術・治療環境を整備して、これからも地域の皆様から信頼される眼科医院であり続けられるよう取り組んでまいります。